

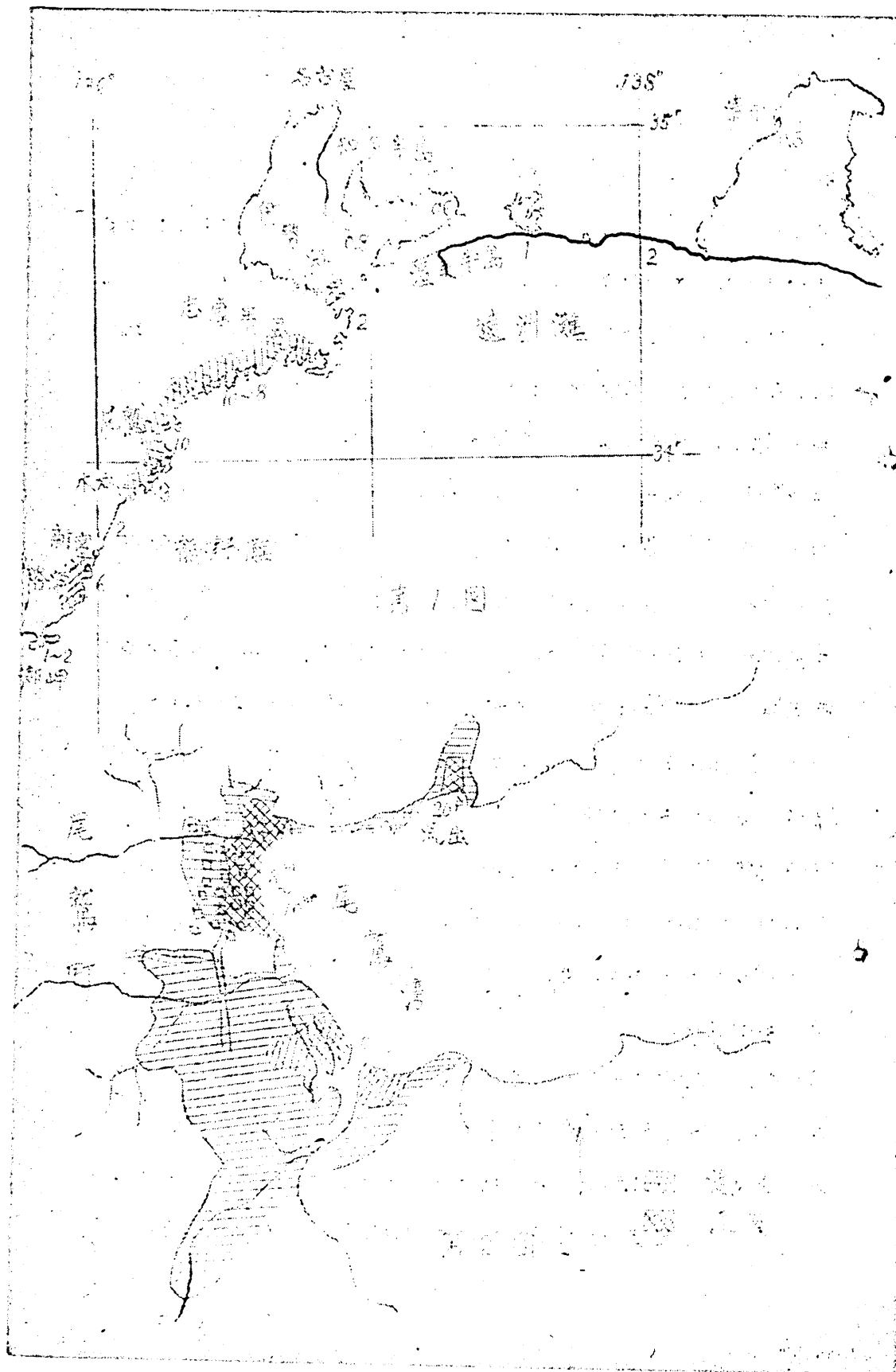
昭和19年12月7日東南海地震ニヨル地震津浪

表 俊 一 郎

1 緒言 昭和19年12月7日午後1時36分頃發生シタ大地震ハソノ規模極メテ大デアツテ、有感地域ハ北ハ東北地方、南ハ九州ニマデ及ビ、東海道及ビ紀伊半島ハ之ガタメニ少ナカラサル被害ヲ蒙ツタノデアツタ。此ノ地震ノ震央ハ、中央氣象台ノ發表ニヨレバ $13^{\circ}E$ 、 $34^{\circ}N$ 即チ尾鷲ノ南東70kmノ沖合ニアタルガ、今回同ノ地震ヨリ91年前ノ安政ノ大地震更ニ140年前ノ寶永ノ大地震ノ震央モ東海道沖合100~200km位ト推定セラレテマリ、今回ノ地震ノ震源トアマリ距ツテヲラズ、此ノ地域ハ累次ニワタリ大地震ノ發生ヲ見タ所ニアタツテキル。今回ノ地震モ寶永、安政ノ地震ニハ及バナイトシテモ、倒塌家屋分布地域ハ静岡、愛知、岐阜、三重、和歌山、大阪、更ニ長野、福井ノ諸府縣ニワタツタノミデナク、三重、和歌山ノ2縣ノ海岸ノ一部ニハ津浪ノ來襲ニヨリ、多大ノ被害ヲ生ゼシメタノデアツタ。

筆者ハ主トシテ和歌山縣、三重縣ノ海岸ノ踏査ヲ行ツタノデ、今回ノ地震ニヨル津浪ニツイテノ概略ヲコ、ニ論ズルコトニスル。

2 津浪來襲ノ地域 津浪ノ來襲シタコトハ、東ハ伊豆半島ノ下田カラ、南ハ紀伊半島ノ潮岬ニ至ル海岸ノ殆ンド全地域ニ於テ觀察セラレタガ、中デモ志摩半島ノ南岸及ビ紀伊半島ノ東岸ニ於テハ陸上ニ奔入シタ水ノ高サハ10mヲ超エル所モアツタ程デアリ。



第1圖ニコレラ津浪來襲地域ノ概略ガ示サレテ居ル。圖ノ斜線ヲホドコシタ部分ハ浸水家屋ヲ生ジタ地域デアリ、海岸ニ記入サレタ數字ハソノ場所デノ津浪ノ高サノ概略ノ値ヲmデアラハシタモノデア
ル。之ニヨルト、震央ニ直接ニ面シテキナイ志摩半島北岸、湊美灣
内、及ビ伊勢海沿岸ニテノ津浪ノ高サハ極メテ小サク、又海岸線單
調ナ遠州灘ノ海岸ニ於テハ浪源ト推定セラレル地域ニ直面シテキル
ニモ拘ラズ、津浪ノ高サハ高々1~2mノ程度デアツタト推定スル
コトガ出來ル、之ニ反シ浸水家屋ヲ生ジタ志摩半島南岸及ビ紀伊半
島東岸ハ、圖ニ見ラレル如ク海岸線ノ凹凸極メテ複雑デアツテりや
す式海岸ノ典型的型狀ヲ示シ、コノ海岸地形ガ津浪ニヨル災害ヲ引
起ス有力ナ原因ニナツタモノデアルコトガ一見シテ明瞭デア
ル。

3 津浪ノ高サ 津浪ニヨリ極メテ激甚ナ損害ヲ蒙ツタ町村ハ第
I表ニ見ルゴトク尾鷲町、吉津村、島津村、錦町、南輪内村、及ビ
新鹿村等デアリ、第2圖ニ之等ノ町村ノ位置ガ示サレテキル。之等
ノ町村ハ何レモ小灣ノ灣奥ニ位置シ、ソレラノ灣奥デハ津浪ノ高サ
ハイヅレモ8~10mニ上リ、ソノタメニ全村殆ンド流出シタトコロ
サヘモ生ジタ。

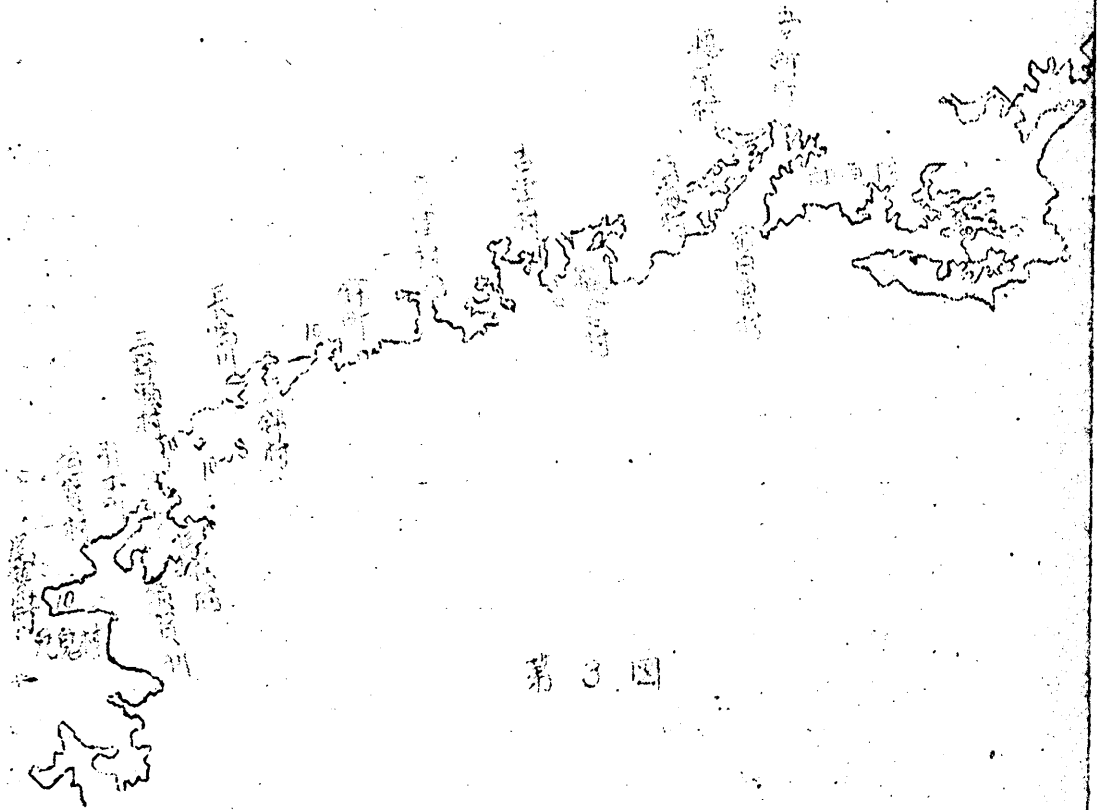
尾鷲町ノ津浪ノ高サハ第3圖ニ見ルゴトクデアリ、網目ノ部分ハ
流失倒壞家屋、斜線ハ浸水家屋分布地域デア
ル。町ノ北部地域ニテハ浸水ノ高サガ地面上アマリ高クナイノニ、倒壞家屋ガ多クナツテ
キル。之ハ尾鷲港内ニ碇泊シテキタ100噸許リノ汽船數隻ガ浪ニ乘

第 I 表

三重縣津浪被害

署別	町 村	死者及ビ 行方不明	傷者	流失住家	流失 非住家	全壊家屋	浸水家屋
宇治山田	五ヶ所町			3	3	17	174
	神原村	1		3	5	3	176
	穂原村	1					91
	南海村		6			10	201
	宿田會村					11	210
吉津	吉津村	19	34	250	32	381	245
	島津村	28		250	28	58	15
	巖倉村	2	3	13	3	45	250
長島	錦町	62	3	335	65	150	100
	二郷村	19		41	20	15	47
	長島町	2	1	5		70	1000
	三野瀬村	2	1	56	4	30	20
尾鷲	桂城村			4	1	5	238
	須賀利村			4		9	149
	引本町	4		37	4		400
	柵智村	2		51	9	10	
	尾登町	46	4	494	54	64	1644
	九鬼村	4	1	12	2	40	300
木本	北輪内村			25	63	64	79
	南輪内村	23		137	49	5	55
	荒坂村	5		18	17	22	73
	新鹿村	18	1	153	225	6	252
	泊			2	25	4	51
藤原	新殿村	3					

ツテ津浪ト共ニ來襲シテ暴威ヲ振ツタメアル。



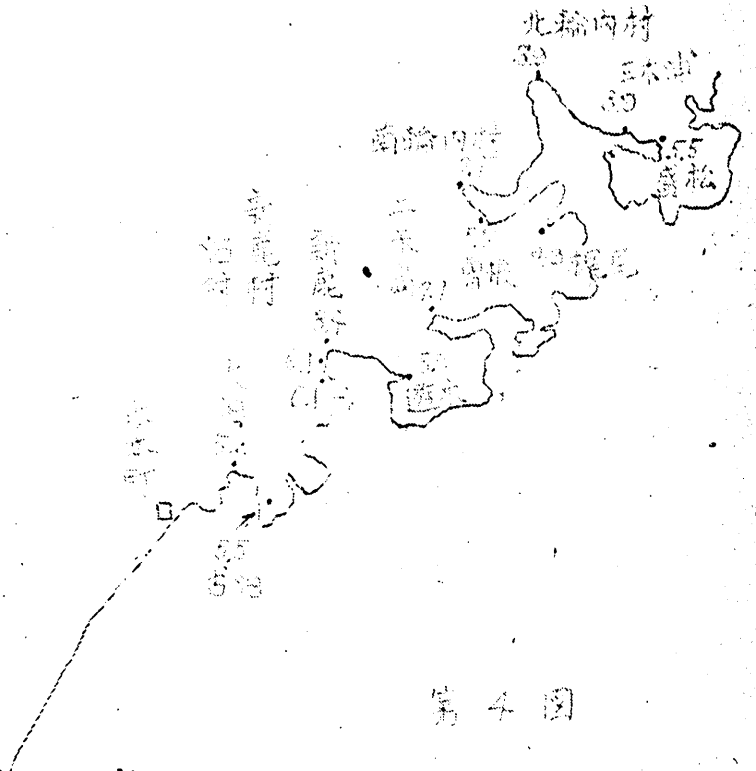
第 3 図

尾鷲湾ノ南ニ位スル賀田湾ニ於テハ、湾奥ノ北及ビ南ニ北輪内、南輪内ノホゞ同形ノ湾ガアルガ、津浪ノ高サハ北デハ最高 3.8m デアルニ反シ南デハ 2 倍以上ノ 6.5m ニ至リ及ンデキル。之ハ津浪來襲ノ方向モ津浪ノ高サヲ左右スル大切ナ要素北輪内村ノナルコトヲ示スモノト思ハレル。即チコレヲノ湾ニ來襲シタ津浪ノ進ンデキタ方向ハ、充分ニ觀察ガ行ハレタトハイビ待ナイガ、温々海岸ニキタ漁

天等ニヨリ認めラレタ所ニヨレバ、必ツシモ海岸線ニ直角デハナク北東々ノ方向ヨリ浸入シテキタモノラシク、此ノ爲ニ浪ノ大部分ノ勢力ガ南端内灣ノ方ニ寄セラレタモノト察セラレル。

新鹿村デハ、浪邊ヨリ200mバカリ距タツテ、高サ2m、巾1m足ラズノ波止メノ堤防ガ海岸線ニ平行シテ築カレ、ソノ内側ニ家屋建並ンデ街ラナシソレヨリ50m後方ニハ段丘狀ニ人家ガ發達シテキタノデアルガ、第1回ノ津浪來襲ノ際ニハ波ハ前面ノ波除ケノ堤防ヲ乗越エテ内側ニ浸入シ、退浪ニ際シ造作ノ粗雑ナ納屋ヲ流ス程度デ終ツタ。次イデ第2回ノ浪ガ來襲シタガコレニ大シタコトハナク終ツタ。併シ第3回目ニ來襲シタ津浪ノ波高ハ極メテ高ク少クトモ6mヲ超エテキタト推定セラレ、コノ最前面ニ位置シテキタ家ハ殆ンド全ク浮出シ、退浪ノ際ニ前面ノ堤防モロトモ悉ク海中ヘ運ビサラレテシマツタノデアツタ。コノ津浪ノ高サハ第4圖ニ記入セラレテキル如クデアリ、海面上略々6mニ及ビ、灣ノ最奥ニテ10mニ及ンデキル所ガアツタ。コノ浪ノ最高ノ所ニ近ク安政ノ津浪ノ高サノ刻マレタ石ガアリ此ノ石ト比較スルト、今回ノ津浪ハコノ場所デハ安政ノ時ヨリ1.5m低カツタト云ヒ得ル。同ジ灣内ノ遊木部落ニテハ津浪ノ高サハ新鹿ヨリハ少シク低ク5.9mデアルガ、流失家屋ハ全クナク浸水家屋ヲ生ジタノミデアル。之ハ海岸ノスグ近クマデ山ガ迫ツテキルトイフコノ場所ノ地形ニヨルコトナガラ、一番低地ニアル家屋サヘ石頭ヲ築イテ海面上4mノ高サニ修築セラレテキタガ

爲デアル。併シ之等ノ家屋ハ浸水 1.9m デアリ殆ンド軒近クマデ浸水シタ。



新鹿ヨリ南ノ古泊灣ニ於テモ同様ニコデノ津浪ノ高サハ 4.5m ニ及ンダニモ拘ラズ、石垣ノ高サガ 4.8m デアツタタメ殆ンド浸水ヲサヘマヌカレテキル。之ニ反シ泊村字大泊ニテハ、津浪ノ高サハ 5.1m、古泊ト略々同様デアルニモ拘ラズ、砂濱ノ上ニ家屋ガ建テラレテキタタメ多大ノ流失家屋ヲ生ジタノデアツタ。

木本町ヨリ新宮市ニ至ル海濱ハ平坦ナ海岸線ヲ持ツタメ浸水家屋ハナク、津浪ハ砂濱ニ押寄セタノミデアツテ、波ノ高サヲ知ル痕跡ガ残ツテキナカツタガ、大略 2~3m ノ高サデアツタラシク推察セ

ラレタ。新宮市ヲ貫流スル熊野川ハ、河口ニ砂洲ガ發達シメノ高サハ略々3m、津浪ハ漸クコレヲ越エタ程度デ何等損害ヲ生ズルニハ至ラナカツタ。

新宮以南ノ海岸ハ再ビ屈曲ニ富ミ、津浪ガ猛威ヲ奮フベキコトガ推察セラレルガ、誠ニソノ通りデアツテ第Ⅱ表ノ數字ヨリソノ狀況ヲウカマフコトガ出來ル。

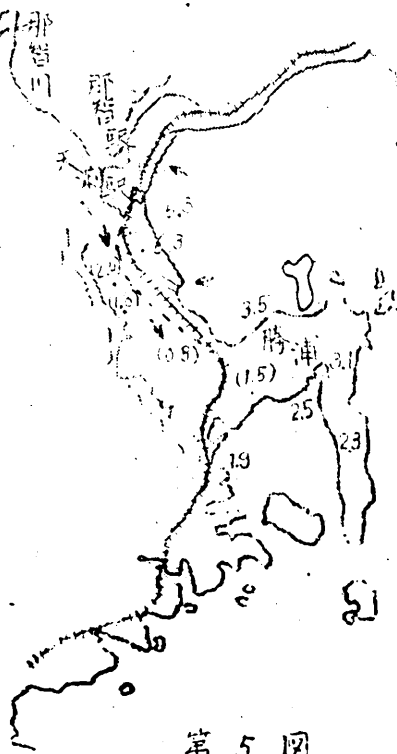
第Ⅱ表

和歌山縣津浪及地震被害

署別	町 村	死者及ビ 行方不明	傷者	流失 住家	流 失 非住家	全壊 家屋	浸水 家屋
新 宮	新 宮 市	7	65		1	100	
	那 智 町			40	69	17	236
	太 地 町		2	22	13	39	271
	下 里 町	2		15		11	165
	勝 浦 町	27	5	76		7	781
	字久井村				9		25
古 座	小 口 村		1				
	北 山 村		1				
	田 原 村	1					
	古 座 村	3					
	古 座 町						

天満灣ヨリ勝浦灣ニ至ル間ノ波ノ高サハ第5圖ニ示スゴトクデア
ル。天満灣ニハ安政ノ津浪ノ後ニ造ラレタト俾ヘラレル防波堤ガ略
略2mノ高サデ海岸ニ作ラレテキル。那智驛ノ附近デハコノ堤防ノ

十二月七日、津浪



第 5 図

頂ノ高サハ海面上陸々

3.5m デアリ波ハコレ
ヲ越エテ驛ニ浸入シタ。
丁度コノ時下リ列車ガ
停車中デアツタガ驛長
ノ處置ニヨリ旅客ハス
デニ避難セル後デアリ、
又浪ノ高サモぶらんと
ほ一むノ上10 ~ 20cm
ニ止ツタタメ被害ヲ生
ジナカツタノハ幸デア
ツタ。那智驛デノ浪ノ
高サハ6m デアル。線

路ヲ越エタ波ハ驛ノ背後ニ展開シテキル平地(線路面ヨリ2m程低
イ。)ニ奔入シタ。コノアタリノ人家ニ残サレテキル津浪ノ跡ハ水
平面ト15°ノ傾キラナシテアリ、水面ハ傾斜ヲナシテ驛背面ノ平地
ヘ流入シテキタコトヲ示シテキル。コレラノ水ハ浸入シタト同ジ道
ヲ再ビ海ヘ引返スコトナク、南方ヘト次第ニ低クナツテキル地形ニ
應ジテ流レサツタト推察セラレル。

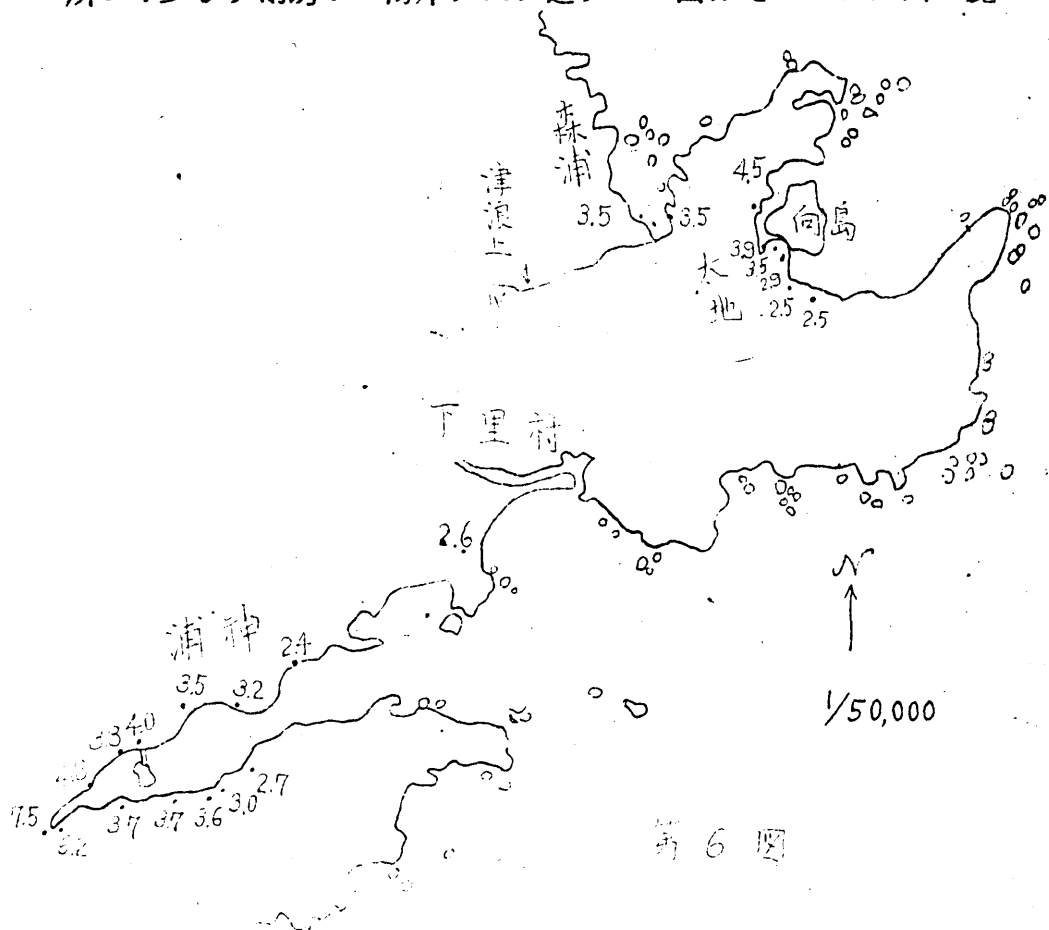
天満部落ニ奔襲シタ津浪ニツイテモ略々同様ノコトガ言ヘル。天
満驛ニ於ケル津浪ノ高サハ亦々3.5m。之ガ堤防背面ノ平地ニ奔入

シテキタタメ天満勝浦間 1.2 km ノ鐵道路線ハ、天満驛一むト勝浦驛直前ノ踏切トラ兩端トシテ弓成リニ海岸線トハ反對側ヘハコバレテアリ、ソノ状態ヨリ察シテモココデモ退浪ガ強カツタ形跡ヲ見ルコトハ出來ナイ。之ハ平地ヘ奔入シタ海水ガ少シツツ下リ勾配ニナツテキル勝浦ノ方ヘ向ツテ流去ツテ行ツタ事ヲ示スモノデアル。海水ノ流レタ方向ハ、津浪ニヨツテ田圃ノ中ニ多數搬入散弁セテヒタ大小ノ石ノ一方ノ側ニ沈澱堆積シテキル砂ヲ手がカリトシテ知ルコトガ出來ル。夥シイ之等沈澱物ノ示ス流水方向ヲ追跡スルコトニヨツテモ、上ノ推察ヲ證據立テルコトガ出來ル。

勝浦ハ圖ニ見ルゴトク勝浦灣ノ奥ニ位スル町デアリ、津浪ノ高サハ圖ニ見ル如ク灣内ニテハ海面上略々 2 m、灣奥ノ大勝浦ニテ高サ 3.3 m ト推定セラレルノニモ拘ラズ流失倒壞家屋多數ヲ生ジテキル。之ハ天満灣ヨリ流入シタ海水ガ流レテ來テ町ノ背後カラ勝浦ヘ奔入シタタメデアルト考ヘラレル。勝浦灣内ニハ多數ノ船ガ擱座シテキルノガ認めラレタ。

森浦及ビ太地灣ニ於テモ津波ノ波高ハ 4 m 内外ニ及ンデキル。シカシコレラノ灣ニテハ海岸地形ガスグ背後ニ山ガセマリ平地ヲモタナイタメ僅少ノ損害ヲ蒙ツタニ止ツテキル。第 6 圖ニ見ル如ク森浦ニテハ灣奥デ 3.9 m 及ビ 3.5 m 即チ地上 2 m ニ及ビ家屋ハ殆ンド軒近クマデ浸水シテキルガ流失ヲマシカレテキル。太地ニテハ、太地ノ橋ノ津波ヨリ 3.5 m 足ラズノ親ノ海峽ヲ距テ、向島ガアリ、津波モ

向島ヲ廻リ太地ノ海岸ヘ寄セテキタ時ノ高サハ2.5mデアルガ、海
 狭ニ浸入シタ浪ハ3~3.5mトナリ、森浦ヘ通ズル道ノアタリデ北
 カラ浸入シタ浪ト南カラ浸入シタモノト出合ヒ、波高4.5mニ及ン
 デキル。シカモコノ地域ハ平坦ナ250m×200m位ノ低地トナツテ
 キルタメ浪ガヒク時ニ多数ノ家屋ヲ流失セシメテキル。之ニ反シ此
 所ヨリ少シク南方デハ海岸ノスグ近クマデ山ガセマリソノ山ノ麓ニ



第6圖

沿ツテ1列ニ並ンダ家屋ニ於テモ地上2 m 即チ殆ンド研ノ高サマデノ浸水ガアツタニモ拘ラス流失ヲマヌカレテ立ツテキルノガ見ラレタ。

浦神灣ハ狭少デ奥行ガ深ク特異ナ型ヲシタ灣デアル。津浪ノ高サハ第6圖ニ見ルゴトクデアリ灣口ノ近クデハ2 m 程度デアルガ灣奥ニテハホゞ4 m 最奥ニテハ7.5 m トナツテキル。

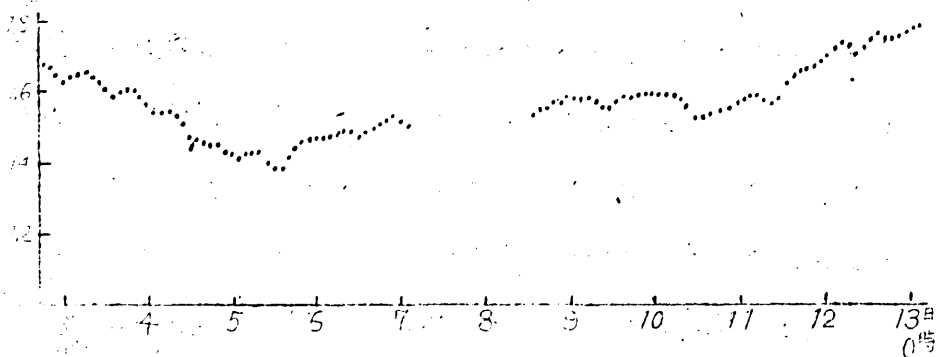
4 津浪被害ト地形 以上述ベタゴトク津浪ノ來襲スル模様ハ灣ノ形ニ支配セラレルコト極メテ大デアリ昭和8年3月3日ノ三陸ノ津浪ノトキニ觀察セラレタ様々ナ性質ガ今回ノ津浪ノ場合ニモ亦明瞭ニ見ラレタノハ寧ろ當然ノコト、イフベキデアル。猶家屋ガ流失スルノハ津浪ノ高サニヨルコトハ勿論デアルガ、ソレト同時ニ海水ノ流動ノ速度ガ重大ナル要素トナルコトガ充分ニウカマハレタ、例ヘバ新鹿村及ビ太地村等流出家屋ヲ生ジタ所ハ、可ナリノ廣サノ所ニ海水ガ溢レタ所ニ限ラレテキル、之ハ津浪ニ際シ、海水ノ流動速度ガ家屋ヲ破壊流失セシメルノニ充分ナ大キサヲ持ツタメニハ、或ル處サ以上ノ所ニ海水ガ湛ヘラレルコトガ必要デアルカラデアル、又勝浦ノ場合ニ於テモ勝浦ノ家屋ヲ流失セシメタ海水ノ流レノ水深ハ多ク見積ツテモ高々道路上1.5~2 m ニスギナカツタト推定スルニ足ル充分ナ材料ガアルニモ拘ラス上記ノ如キ損害ヲ生ゼシメタノハ、海水ガ川ノ如クニナリソノ表面ニハ天海カラ運ンデキタ幾多ノ浮遊物ヲ浮マタセ、シカモ可ナリノ流速ヲ以テ移動シタタメデアルト

考ヘラレル。之ニ反シ新鹿村遊木，森浦村，及ビ太地村ノ一部等ニ見ラレタ如ク軒先マデ浸水スル所トナツテモ地形ノタメ海水ノ急速ナ流動ガトメラレタ地域ニテハ家屋ハ流失ヲ免レテキルノガ見ラレタ。

津浪來襲ノ時ニアタリ海面ノ形狀及ビ水位上昇ノ様相ガ如何ナルベキカニツイテハ三陸ノトキ以來多クノ問題ヲノゴシテキルノデアリ，從ツテ海上遙カヨリ來襲スル有様ヲ實際ニ見タ人々ノ談話ハ有力ナ指示ヲ與ヘルモノデアルカモ知レナイ。幸ヒ今回ノ津浪ノ來襲ハ午後1時30分～2時頃デアリ之ヲ見テキタ人モ少クナイ。ソレヲ實見者ノ記録ハ地質研究所彙報ニ記載スルコト、スル。

5. 地形變動ニツイテ 紀伊半島東岸ノ調査ニ於テ殆ンド全テノ海岸ニ於テ海水面ガ地盤前ヨリ高イト云フコトヲ聞カサレタ。而モソレラノ多クハ魚業關係ノ毎日海岸ヲ見テキル人々ノ談話アルノデ一概ニ單ナル錯覺トシテ考慮ノ外ニ備クベキデハナイカモ知レナイ。ソノ潮ガ高イト云フ程度ハイヅコニテモ1尺～2尺ノ程度デアリ潮岬ニテモ約1尺位潮ガ高クナツタトイハレテキタ。潮位ガ上昇シタトイフ基準ハ人ニヨリテ干潮ノトキニ地盤以前干イテキタ高サマデハ干カナクナツタトスル者モアリ，高潮時以前ハ水ガコナカツタ地域マデ浸水スルヤウニナツタトイフ者モアリ一様デハナイガ，潮位ノ上昇シタコトハ或ヒハ眞實デハナイカト尋ハレル程大多數ノ人ニヨリコノコトガ確認セラレテキタ。コノ地域ハ埋立地又ハ砂浜トコ

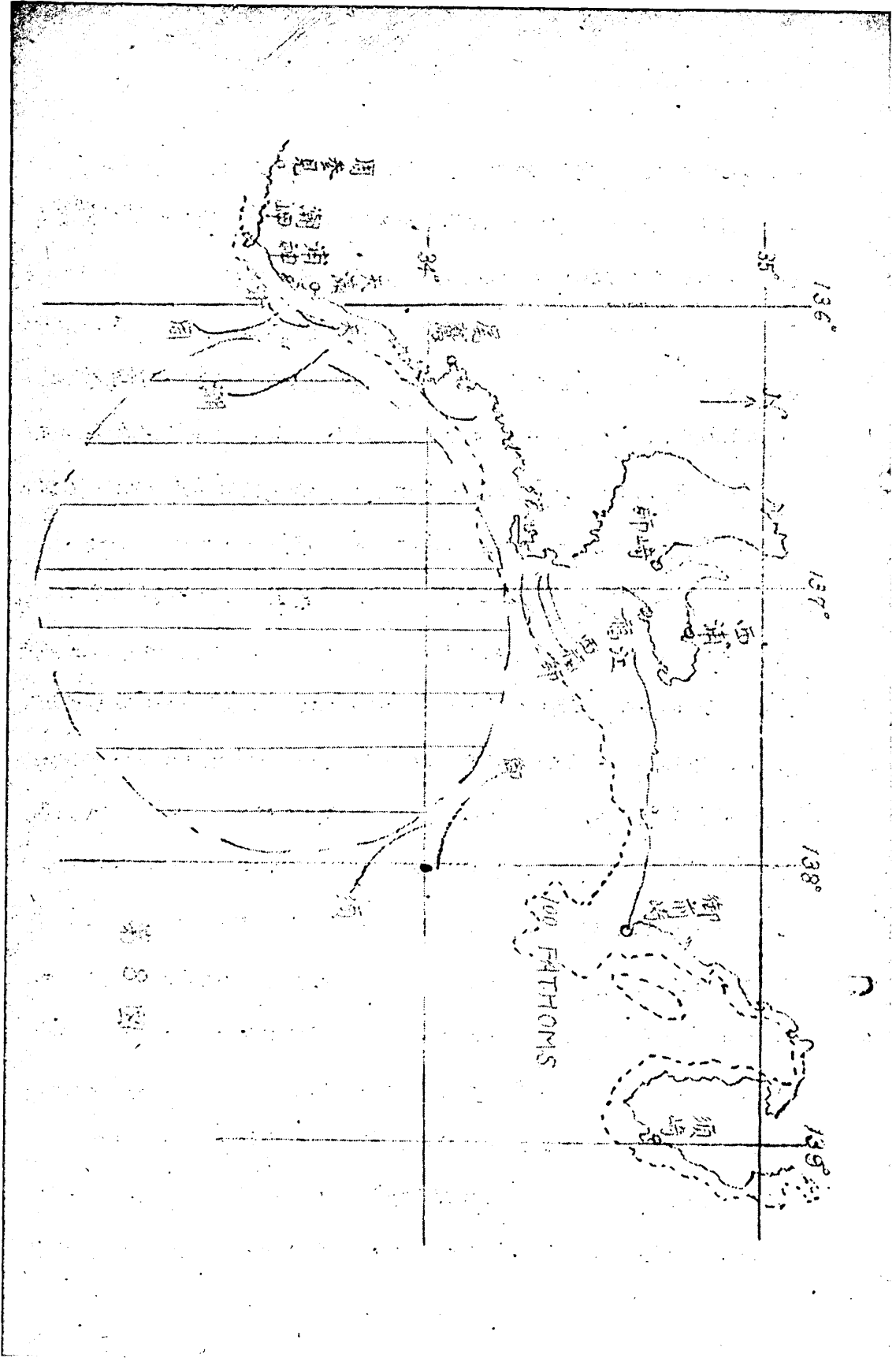
トナリ海岸ハ石ヲ積上ゲタ設岸デアル地域ガ多イノデ鉛直方向ニ30
 cmノ差ガ生ジタトイフノハ名古屋市ノ南部等ニ見ラレタゴトク地
 震動ニヨリ地盤ノ沈下ヲ生ジタモノトモ考ヘ難イ。又反對ニ御前
 崎ニテハ海岸隆起セリトイハレテキル所モアリ猶又12月7日ノ本
 震後ノ餘震ノ發生地域ハ氣象台ノ發表ニヨレバ多クハ東海道ノ沿岸
 ニ近イ地域ラシク思ハレルノデ、若シ地震ニ伴フ地形變動ガ生ジタ
 トスレバ紀伊半島ニ沈下ノ現象ガ見ラレタトシテモ必ズシモアヤシ
 ムニ當ラナイト思ハレル。之ヲ數量的ニ判斷スルニハ水準測量ノ結
 果ニマタナクテハナラナイノデアルガ、カリニ30cmニ及ブ變化ガ
 アツタトスレバ檢潮儀ノ記録ヨリ充分檢出セラレル筈デアル。從ツ
 テ比較的震央ニ近イ數ヶ所ノ檢潮儀記録ヨリ地震前後數日間ノ潮位
 解析ヲ行ヒ變動ヲ見出サントコ、ロミタ。之ハ目下計算中デアルノ
 デコ、ニ述ベ得ルノハソノ中渥美灣北部ノ西浦ノ檢潮儀記録ニツイ



第 7 圖

テ解析ヲ行ツタ結果ノミデアリ第7圖ニ12月2日7時ヨリ7日12時マデ及ビ7日15時ヨリ14日7時マデノ潮位ニツキ1時間毎ニ25時間平均ヲ行ヒ干満ノ影響ヲ除去シタ結果ガ示サレテキル。併シコノ圖カラ地震前後ニ土地ノ鉛直方向ノ變動が生ジタカ否カラ判定スルコトハ困難デアリ、且ツ西浦附近ハ一若シ今回ノ地震ニヨリ地殻變動が生ジ隆起沈降ノ地域ガ上記ノ如クデアツタトシテモ一變動ノキハメテ少イ地域トナルデアラウト想像セラレルノデ此ノ圖ノミカラ地殻變動ニツイテノ結論ヲ引出スコトハ出来ナイ。

6 後潮儀ノ記録ヨリ浪源ノ推定 津浪ガ發生シテ海岸ニ來襲スル場合ソノ海岸ニ到着シタ時刻ハ、或ハ後潮儀ノ記録カラ又ハ目撃者ノ記録カラ測定スルコトガ出来ル場合ガアル。若シコノ値ガ幾ツカノ地點デ測定セラレタトスルナラバ、逆ニ地震發生ト同時ニ夫々ノ觀測地點ヨリ、津浪ト同ジ性質ヲ有スル長波ガ出發シテ海岸ヘ進行シテ行ツタトシタ時夫々ノ觀測點ニ津浪ガ到着シタ時刻ト同時刻ニ先ニ各點ヲ出發シタト考ヘタ浪ガ到着シテキル波面ヲ地圖ノ上ニ求メルコトハ出来ル。コノ様ニシテ夫々ノ各觀測點ヨリ畫カレタ波面ノ包絡線ハ浪源ノ位置ヲ示スモノト想像シテ差支ヘナイヤウニ思ハレル。幸ヒ今回ノ津浪ノ場合ニハ第8圖ニ見ルゴトク師崎、西浦、福江及ビ周參見ニ後潮儀ガアリ更ニ天満驛及ビ浦神驛ニテハ列車ノ運行ト較ベテ地震發生ノ時刻津浪來襲ノ時刻ガ明確ニ判明シ更ニ潮岬及ビ御前崎等ニテハ特殊ノ目的カラ



第 8 图

拂ハレテキタノデ津浪來襲ノ時刻ガ比較的正確ニ判明シテヲリ、更ニ又伊豆半島須崎ニ於テモ越川理學士ニヨリ津浪來襲ノ時刻ガ觀察セラレテキタノデ津浪ノ速度ヲ測定シテ上述ノ波面ヲ作圖スルコトヲ試ミタ。津波ノ速度ノ詳細ナ吟味ハ後ノ機會ニユヅリ、今回ハ $V = \sqrt{gh}$ トシテ海圖ヨリ各場所々々ノ深サヲ求メテ速度ヲ計算シタ。

コノヤウニシテ求メラレタ波面ハ第 8 圖ニ示サレテキルゴトクデアリ之ヨリ推定スレバ圖ニ陰影ヲホドコシタ部分ガ浪源ト考ヘラレル地域トナル。此ノヤウニシテ求メラレタ浪源ノ大キサハ直徑略々 200 km ノ擡リヲタモツモノトナルガ三陸地震ノトキニ宮部博士ノ求メラレタ浪源ノ大キサ 600 km ニ比ラベレバ可ナリ小サイト云ヒ得ル。而モ今回ノ津浪ノ第 1 波ノ週期ハ第 II 表ニ示スゴトクデアリ、コノ中和歌山ノ檢潮儀ハ津浪ノ始マリノ時ハ時計ガ停止シテキタ爲第 1 波ノ週期不明、津脚ノハ目測ニ依ルモノデアルノデ除外シ檢潮儀ノ記録ヨリ第 1 波ノ週期ヲ求メレバ 30 分トナル。浪源ノ附近ニテノ海ノ深サヲ大略 3000 m ト推定スレバ波長 $L = 300$ km トナリ浪源ノ大キサハ三陸津浪ノトキト同様略々波長ト同程度ノモノトナル。シカシ圖ヨリ明ラカナ如ク此ノ大キサノ浪源ヲ有シタト考ヘルコトハ三陸地震ノ如ク沖合遙カニ震央ヲモツ地震津浪ノ場合ニハ大シタ矛盾ヲ生ジナカツタケレドモ今回ノ如ク比較的陸地ニ近い地震ノ場合ニナルトイサ、カ考ヘ方ニ無理ヲ生ジル様デアル。上述ノ如クシテ浪源ヲ推定スル方法ニ於テ一番問題トナルノハ檢潮儀ノ設置セラ

第 四 表
津 浪 ノ 週 期

鹿 崎	藤 江	西 津	和 歌 山	濱 田
分	分	分	分	分
32	29	27	60.8	08
36	37	34	59.3	12
33	34	32	40.0	14
28	42	39	37.7	16
29	34	40	34.6	36
28	38	35	40.8	
32	40	50	77.0	
33	44	70	70.0	
33	62	72	61.6	
27	65	70	65.4	
42	65	68	77.0	
31	65			
32	75			
30	70			
40	70			
35				
30				

レテキル地點ニ極ク近イ水深ノ淺イ所ヲ假ルハ波ノ速度分布ノ
 間隔デアリコノ部分ニツイテ更ニ充分吟味ヲ行ツテ見タ結果ニ
 ツイテハ後ノ機會ヨマツテ論ズルコト、シタイ。シカシ梅津ニ
 於テ浪源ノ中心ハホ、コノ圖ノ中心デアルト推察シテアヤマリ
 テナイト考ヘラレ又海底ニ地形變動ガ生ジテ津浪ガ發生シタ地
 點ハ震央ト略々一致スルト考ヘルコトヲ許サレ、バ之ヨリ震央

ノ位置ヲ推定シテモ差支ナイト考ヘラレル次第デアル。

7 結 び 以上今回ノ東南海地震ニヨル地震津浪ニツイテ今日
マデニ判明シテキル概略ヲ述ベテ速報トスル次第デアル、詳シクハ
地震研究所彙報ニ記述スルコト、スル。終リニコノ調査ヲナスニア
タリ種々便宜ヲ給與セラレタ關係當局ノ各位ニ對シ深甚ノ謝意ヲ表
スル次第デアル。(昭和20年1月20日)